

平成30年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病 赤かび病（防除情報第19号）	並 —	並 並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや少 少 並 並 並 やや少	並 やや少 少 並 並 並 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 並 並	並 並 やや多
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 アザミウマ類	並 やや少 やや少 やや少 並	並 やや少 やや少 並 やや多
たまねぎ	白色疫病 べと病（注意報第6号継続） ネギアザミウマ	やや少 多 やや少	やや少 多 並
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 (越冬病斑) 並 (越冬病斑) やや少	並 並 並
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	並	並
茶	カンザワハダニ	やや少	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった（大麦：発生を認めない、小麦：過去10か年平均 発病茎率0.0%、発生圃場率0.7%）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった

(発生を認めない)。

2. 赤かび病

平成31年3月15日付け**病害虫発生予察防除情報第19号**による。

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.1%(4.0%)、発生圃場率は58.3%(30.5%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.2%(7.4%)、発生圃場率は50.0%(65.2%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率2.2%、発生圃場率13.5%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.1%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率5.4%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.3%(2.4%)、発生圃場率は33.3%(32.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(1.4%)、発生圃場率は8.3%(26.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は1.8%(0.3%)、発生圃場率は16.7%(18.8%)で、一部多発圃場が見られた。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病果率0.4%(0.2%)、発病葉率は0.9%(過去6ヵ年平均0.9%)、発生圃場率は41.7%(同25.0%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.1%(1.1%)、発生圃場率は41.7%(20.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

エ 施設内および周辺の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

- 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査(27筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率1.9%)。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は7.4%(20.8%)であった。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は3.7%(6.9%)であった。

4. ハダニ類

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
ア 3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.5%(7.0%)、発生圃場率は33.3%(43.1%)であった。
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

5. アザミウマ類

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.9%(過去3か年平均2.2%)、発生圃場率は25.9%(過去3か年平均25.9%)であった。
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 施設外から成虫の飛び込みが多くなる時期なので、施設周辺の雑草を除去する。
イ 発生が多くなってからの防除は困難なので、早期発見・早期防除に努める。
ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

たまねぎ

1. 白色疫病

- (1) 予報内容
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
3月前期の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.1%、発生圃場率8.3%)。

2. ベと病

平成31年2月24日付け**病害虫発生予察注意報第6号**を継続。
なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

- (1) 発生状況等
ア 3月前期の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.1%(0.1%)、発生圃

場率は33.3%（12.5%）であった。

イ 3月13日に実施した臨機調査（諫早地区の連作圃場、定点20圃場）の結果、発病株率0.71%（前年3月27日調査 0.53%）、発生圃場率75.0%（同70.0%）であった。

ウ 3月中旬の県予察圃（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率が極早生品種で10.0%（前年 発生を認めない）、中生品種で12.0%（同 発生を認めない）であった。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は13.1%（18.4%）、発生圃場率は46.7%（61.7%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.0%（0.0%）、発生圃場率は5.6%（2.4%）であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.0%（0.2%）、発生圃場率は8.3%（7.4%）であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率1.4%（2.2%）、発生圃場率は19.4%（29.4%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

果樹共通

1. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成30年9月および10月に実施した産卵樹上（アカメガシワ、カラスザ

ンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区で発生程度は0.1であった(平成20~29年の発生程度の平均値:0.2)。

※以下の基準により発生程度を達観で調査した。

調査基準:極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.1%(1.8%)、発生圃場率は6.3%(29.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

【参考】

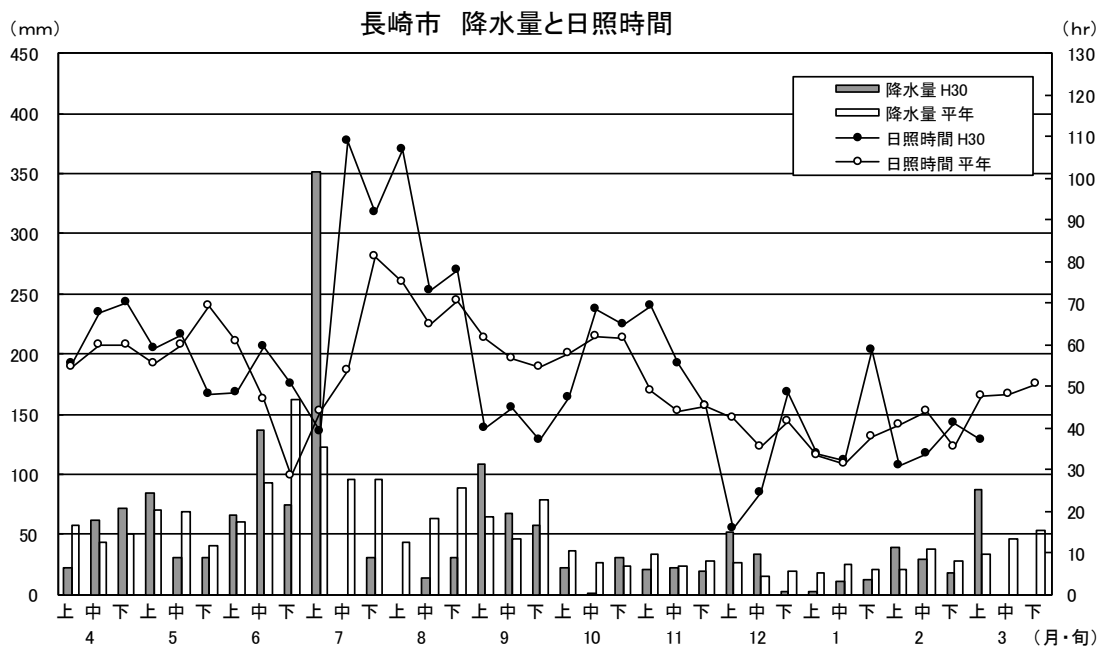
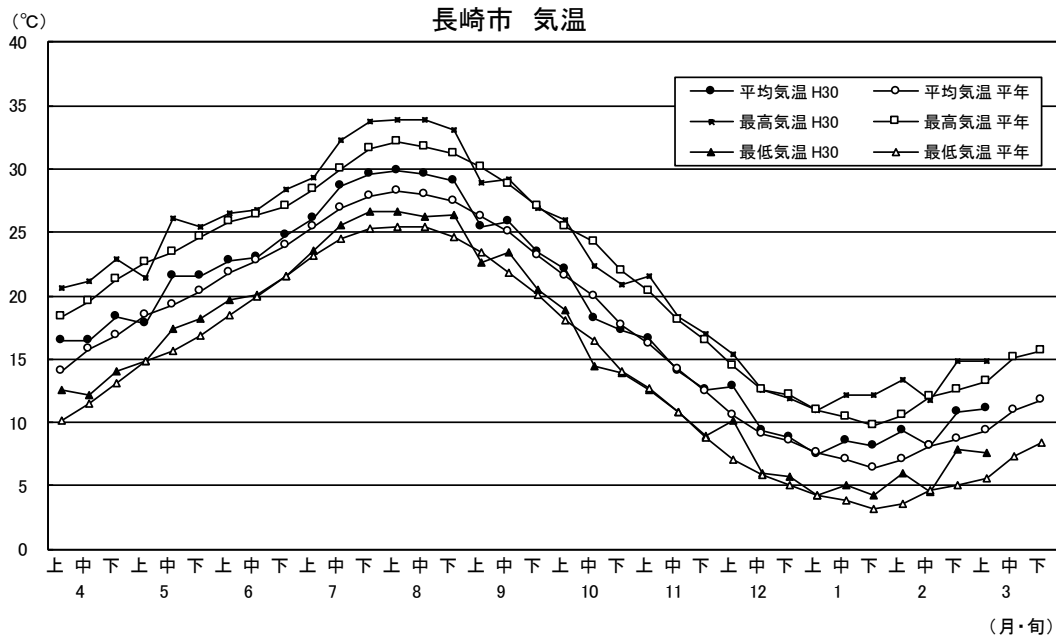
気象 (平成31年3月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	40	30	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

平成30年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

